

## はじめに

渡部 一仁

その事件は、194\*年、フランス・オランで起こった。「4月16日の朝、医師ベルナール・リュウは、診察室から出かけようとして、階段口のまんなかで一匹の死んだ鼠につまずいた」(カミュ作「ペスト」・宮崎峯雄訳)。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2020年2月、横浜港で起こった。クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の乗客からウイルス陽性者が確認された。全く偶然にこの事件が発生する少し前から筆者はその作品に目を通していた。

人類の歴史は感染症の歴史とも言われ、古くは天然痘やマラリア、ペストなどが世界的規模で大流行を起こしており、近年ではスペイン風邪、記憶に新たな SARS や MERS などがある。人類は感染症の脅威を恐れおののき、盧舎那仏像を建立して国家安寧と疫病除けを祈願し、伝染病の魔除けをお札に託し、神や仏に加護を乞うた。ヨーロッパでペストが大流行した際に医師は、クチバシ付きマスク、革手袋、長いコートを着用し、感染を防護しようとしている。くちばしのようなマスクには、シナモンなどの香料などを入れていた。

人類は感染症の歴史から多くのことを学んでいるはずであるが、今回の COVID-19 の主語をペストや SARS と置き換えればまったく同じ誤りを繰り返していることに気がつく。また、フェイクニュース、「ヒト・モノ・カネ」、情報が瞬く間に世界中を駆け巡り、世界経済の混乱と国家間の力のバランスの崩壊、政治体制の危機などがもたらされている。with/after コロナを迎え、正確な情報に基づいた冷静で賢明な対処に心掛けることが肝要であろう。



図1. 魔除けお札  
(志水軒朱蘭『疱瘡心得草』より「疱瘡神祭の図」)



図2. 17世紀のペスト流行時に医師が着用していた防護服  
(出典：PHOTOGRAPH BY ARTEFACT, ALAMY)

スマホ片手に情報が入手できる今、印刷物の頁をめくりながらの情報入手はもはや時代遅れの感がある。時々刻々と変化し更新する新型コロナウイルス感染症の現状とその対応手段を可及的速やかに取り上げることを主眼とし、本特集は電子版スタイルとして会員に限定せずに広く社会に公開することとし、会員の英知と情報に基づいて総力を挙げて、会員同士の情報の共有、さらには社会貢献に向けて本特集を企画した。

本特集では、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）とその他のパンデミックをまず取り上げ、新型コロナウイルスの基礎知識と集団予防および不活化、消毒、ウイルス感染症の診断と検査方法、マスクの感染予防効果、看護医療分野における感染制御対策とその現状、抗ウイルス剤の開発などについて基礎的な解説や研究成果を中心とした最新の知見などを取り上げている。また、本学会と密接な関係にある食品産業界におけるCOVID-19への対応として暫定ガイダンスも取り上げた。

最後に本学会名誉会員の篠田純男先生からCOVID-19に関連して学会に期待される活動について寄稿して頂いた。

本特集は名誉会員、会員並びに医療・看護分野で活躍中の諸先生の協力を得て極めて短時間（約4週間）で執筆していただいた。ここに厚く感謝申し上げます。

記載日 2020年7月1日

## 特集目次

1. 都市災害としてのCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）とその他のパンデミック  
篠田 純男（岡山大学名誉教授 岡山大学インド感染症共同研究センター）
2. 新型コロナウイルスの基礎知識、集団予防および生存性・不活化  
野田 衛（麻布大学）
3. ウイルス感染症の診断と検査方法  
加瀬 哲男（大阪市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学（兼）感染症科学研究センター）
4. インフルエンザの予防とマスクの感染予防効果  
小林 寅喆（東邦大学看護学部 感染制御学）
5. 新型コロナウイルスに有効な消毒剤／除菌剤  
原田 裕（サラヤ(株) バイオケミカル研究所 サラヤ微生物研究センター）
6. 新型コロナウイルスパンデミック期における感染管理と看護  
伊藤 道子（北里大学看護学部）  
林 俊治（北里大学医学部）
7. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）地域感染期における看護の役割と看護体制のあり方の課題  
住田千鶴子（稲沢市民病院 看護局）
8. 医療従事者における感染制御、特に感染防護服の現状における  
問題点からの研究成果をふまえた提言 - 将来への感染防護服の改良に向けて -  
森本美智子（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）  
内田 幸子（高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科）  
田辺 文憲（山梨大学大学院総合研究部基礎・臨床看護学講座人間科学領域）  
荒川 創一（三田市民病院）
9. 食品産業界におけるCOVID-19への対応 - 暫定ガイダンス -  
泉 秀実（近畿大学 生物理工学部）
10. 学会として期待される活動  
篠田 純男（岡山大学名誉教授 岡山大学インド感染症共同研究センター）